

Kinexions2023

Supply Chain Innovators Conference

参加レポート

2023年6月
株式会社エクサ

- 2023/6/19-6/21
- テネシー州ナッシュビル
- 目的：
 - 事例や講演を聞いて知識を深める
 - 普段出会えない人々と交流してキャリアを広げる（人脈作り）
 - 普段来られない場所に来て楽しむ

the premier global conference for supply chain planners, innovators and thought leaders. Be inspired by 70+ speakers, world-class keynotes and real-life supply chain transformation stories. Elevate your career, enhance your industry knowledge and plan for unlimited fun and music alongside an amazing supply chain community.



- メインステージ
- セッション
 - 事例やパネルディスカッション技術紹介など
- ハンズオン
 - 準備されたPCを操作して講習を受けるスタイル
- その他
 - Music Therapy
 - Networking Lunch and Meet the Experts
 - ランチ提供や休み時間にビュッフェスタイルで軽食を提供。
 - Kinaxisの担当者がRapidResponseを用意した各ブースに立っており、Q&Aが可能。



Orchestrating Success for the Future of Supply Chain

Kinaxis CEO: John Sicard

(※ エクサメンバーの所感となります)

- パンデミックの間、サプライチェーンは困難に対応できなかった。
また、その困難を許容もしくは、そこから回復する力が必要。
- 3年後ではなく30年後を生き抜くためのSCM改革が必要。
- This is our moment in time. World society counting on us.
(今こそ我々の時代。世界は我々に期待している)
- スローガン：**Supply Chain in the Pocket**
パンデミック後、我々はサプライチェーンをコントロール (in the pocket)しようと試みており、それには漸進的 (incremental)な方法ではなくブレイクスルーが必要だ。

理解：パンデミックやアメリカ港湾危機のなかで、サプライチェーンは危機対応に失敗した。

食品や半導体などを適切に供給する、そしてサステナブルでいることは企業にとって利益はもちろん、最も大きな社会貢献であり、他企業との差別化につながる。

そしてSCM改革は守りの戦略ではなく攻めの戦略であるとの力強いメッセージと感じた。

そのためのSCM改革に向けたキー単語は、Orchestrate(tion)。

オーケストラの指揮者のように、SCM全体を指揮できるツールを目指していくメッセージと理解した。

- Kinexionsは、出席者が事例や技術情報を収集する場に留まらず、**各社のSCM担当者が集まって、SCM改革の意義や重要性、そしてSCMの世界的潮流を確認してそのモチベーションをあげたり、ネットワーキングの場としたり、SCMに関わる仲間同士で一緒に楽しもうという場**と感じた。
- 中国系の人も多かったが、それ以上にインド系の人も多く世界の潮流も感じるとともに、SCM = グローバルであることを肌で実感した。
- 日本で普段携わっているSCM関連のプロジェクトでは、余り大きく打ち出されないCo2排出、エコシステム、持続可能性のキーワードが多く、日本と世界の違いを感じた。
- 技術者視点では、個別機能の情報は日本でも時間差はあれど受け取れるだろうが、KinaxisがRapidResponse全体をどのような方向性で発展させるのかを把握できたことは良かった。
- RapidResponseの機能的方向性は1ソリューションでサプライチェーン全体をカバー、AI、コンカレント機能サポートによる人へのサポート（より高次の決定に時間を避けるようにしていく）と理解した。

- ・実際にRapidResponseの機能を開発している人々、カスタマーサポートの人と交流、若干でも人脈が作れたことは素晴らしい経験だった。日常生活や、パーティでの会話など、通じなくても皆理解しようとしてくれるし、翻訳機能があるのでなんとかなる。

- ・英語のヒアリングはかなり厳しかったが、理解できる部分が一部でもあれば、それなりに頭に入ってくる。今回はOnDemandの映像もあるので、帰国後に再度見直して不明な部分は翻訳していき、理解を深められるのは大きな利点。

また、アメリカという国の実際、働き者とそうでない者、貧富の差やウーバー等の普及、物品インフレの状況を自分の目で把握できたことは良かった。

以上